

DRI プレスリリース

2011年12月号

株式会社データリソースは、海外市場調査会社の発信する市場や技術の動向などをプレスリリースとして提供しています。
(一部日本語訳あり) また、各界で活躍する専門家の方々に原稿を依頼し、ホームページに掲載しています。

これらの記事はホームページ上で公開するほか、最新の情報を無料メールマガジンでもご案内しています。
無料メールマガジンの配信をご希望の方は、info@dri.co.jpまでお申し込みください。

また、弊社取扱いの商品を一覧できる「レポートリスト」の郵送(無料)を希望の場合は、送付先の情報もお知らせ下さい。
(株式会社データリソース 電話: 03-3582-2531、Eメール info@dri.co.jp)
データリソース HP からダウンロードも可能です。

DRI プレスリリース 2011年11月 配信プレスリリース

- 2011年11月29日 エネルギーハーベスティングデバイスの出荷台数は、2015年までに2億3500万台に達する
(パイクリサーチ社)
- 2011年11月24日 タッチスクリーン業界における透明導電膜市場調査レポートをナノマーケット社が出版
(ナノマーケット社)
- 2011年11月16日 デジタル衛星 STB 出荷数の成長は2012年に14%に近づく (インスタット社)
無線接続市場: ブルートゥース、Wi-Fi、近距離通信、GPS、802.15.4、ウルトラワイドバンド、
コンボ IC (ABI リサーチ)
中国のモバイルアプリケーション市場: モバイル市場、WoStore、eStore (ABI リサーチ)
- 2011年11月14日 モバイル半導体市場の市場シェアの40%の成長をリンレイグループ社が報告(リンレイグループ社)
世界で発表または展開中のエネルギー貯蔵プロジェクトは約600 (パイクリサーチ社)
調査回答者の75%は「理想的な携帯電話の機能」として4Gをあげた (インスタット社)
- 2011年11月10日 世界のセットトップボックス市場: CATV、DBS、IP、地上波デジタル放送: ケーブルゲートウェイ、
ハイブリッドボックス、DTA (ABI リサーチ)
産業用の無線センサーネットワーク: WirelessHART、ISA100.11a、WIA-PA、ZigBee (ABI リサーチ)
貨物用コンテナのセキュリティとトラッキング: RFID、RTLS、OCR、GPS、センサ、衛星、セルラー、
Wi-Fi 技術 (ABI リサーチ)
スマートグリッドのセキュリティ: サイバーセキュリティと産業用コントロール技術の新世代
(ABI リサーチ)
- 2011年11月7日 NFCチップの出荷数は2015年に12億を越える (インスタット社)
2018年までのスマートグリッドサイバーセキュリティへの投資の63%はユーティリティーコントロールシステム分野 (パイクリサーチ社)

株式会社 データリソース

東京都港区赤坂1-14-5-N313 (〒107-0052)

電話 03-3582-2531

ファックス 03-3582-2861

www.dri.co.jp

電子メール info@dri.co.jp

Bluetooth、Wi-Fi、近距離通信、GPS、802.15.4、ウルトラワイドバンド、コンボ IC

米国調査会社 ABI リサーチの調査レポート

「Wireless Connectivity Markets: Bluetooth, Wi-Fi, NFC, GPS, 802.15.4, UWB, and Combo ICs」のサマリー

(日本語訳)

無線接続技術は、多くの電子機器市場において確立している。Bluetooth、Wi-Fi、GPS は、スマートフォンなどでは標準的に搭載されており、搭載率は 100%に達している場合もある。近距離通信技術や 802.15.4 などの新しい技術は、急速な成長が期待されている。省電力が注目される Bluetooth v4.0 や、802.11ac や 802.11ad へ標準の移行がなされるであろう Wi-Fi などの新たな発展によって、無線接続技術もまた早いペースでの進展が継続するだろう。搭載率の上昇によって、消費者の需要を充たすために、異なる無線接続技術の組み合わせの開発が進められている。特にスマートフォンやラップトップ PC、メディアタブレットなどの市場において、「コンボ半導体」の重要性が高まっている。スタンドアロンの半導体はなくなるわけではないが、すべての市場がコンボ半導体へと向かうやむにやまれぬ理由がたくさんある。この調査レポートは、26 のデバイスカテゴリーの、Bluetooth、Bluetooth v4.0、Wi-Fi、Wi-Fi Direct、GPS、近距離通信技術、ウルトラワイドバンド、802.15.4 の 8 つの無線接続技術の予測を行っている。無線接続半導体市場を詳述し、スタンドアロンとコンボの半導体のベンダ市場シェアの予測を主要製品カテゴリーごとに行っている。

(原文)

Wireless connectivity technologies are well-established in many electronic device markets. Bluetooth, Wi-Fi, and GPS are becoming ubiquitous in certain devices, such as smartphones, with attach rates approaching 100% in some cases. Rapid growth is forecast for newer technologies such as NFC and 802.15.4. Wireless connectivity technologies also continue to progress at a fast pace, with new developments such as Bluetooth v4.0 (with low energy being a key facet) and Wi-Fi moving to the 802.11ac standard and 802.11ad coming in the future. As attach rates increase, combinations of different wireless connectivity technologies have been developed to address the needs of customers. "Combo ICs" have become increasingly important, particularly in the smartphone, laptop, and media tablet markets (among others). Standalone ICs are not dead, however, and there are many compelling reasons that not all markets will move to combo ICs. This comprehensive study includes market estimates and forecasts for eight wireless connectivity technologies (Bluetooth, Bluetooth v4.0, Wi-Fi, Wi-Fi Direct, GPS, NFC, UWB, and 802.15.4) across 26 device categories. It presents a detailed look at the wireless connectivity IC market, including forecasts for standalone versus combo ICs and vendor market shares for the major product categories.

調査レポートの詳細は、<http://www.dri.co.jp/auto/report/abi/abiconn11.htm> をご参照ください。

中国のモバイルアプリケーション市場

モバイル市場、WoStore、eStore

米国調査会社 ABI リサーチの調査レポート

「Chinese Mobile Application Market: Mobile Market, WoStore, eStore」のサマリー

(日本語訳)

近年の中国でのフィーチャーフォンやスマートフォンの登場は、モバイルアプリケーションの利用を大きく促進した。欧米諸国の成熟市場には、すでにスマートフォンアプリケーションがたくさんあって、スマートフォンは普及しているが、中国のモバイルアプリケーション市場はまだ始まったばかりである。この調査レポートは、中国特有のモバイルアプリケーションの市場を詳細に概観し、言語による障害やクレジットカードの普及率の低さ、政府の法規制の厳しさ、著作権侵害の問題などの、際立った特徴や課題について述べている。モバイルアプリケーションのエコシステムを概説し、アプリケーション開発の促進要因と阻害要因、主要な市場傾向と市場概観を記載している。

(原文)

The rise of feature phones and smartphones in China in recent years has contributed to a growing trend of mobile applications usage. While some of the mature markets in the west are already immersed in smartphones and swarmed with smartphone applications, the mobile applications market in China is only beginning to emerge. This report provides a deeper view into China's unique mobile app environment, where some of the distinctive characteristics and challenges include language barriers, limited popularity of credit cards, tight government regulations, and piracy concerns. It outlines the mobile app ecosystem, identifies the drivers and challenges of app development, and focuses on the major trends and market outlook.

調査レポートの詳細は、<http://www.dri.co.jp/auto/report/abi/abiapma11.htm> をご参照ください。

世界のセットトップボックス市場

ABIresearch

CATV、DBS、IP、地上波デジタル放送: ケーブルゲートウェイ、ハイブリッドボックス、DTA

米国調査会社 ABI リサーチの調査レポート「Worldwide Set-Top Box Markets: CATV, DBS, IP, DTT: Cable Gateways, Hybrid Boxes, and DTAs」のサマリー

(日本語訳)

世界のセットトップボックス市場は、北米や西欧諸国でのデジタル移行がほぼ完了し、いまだクリティカルマスに達していないその他の国々でも小康状態にあることから、2012年には小さく下落することが予測されており、全体としては2011-2016年に2億2100万から2億4200万へと緩慢に成長するとみられている。北米や西欧諸国のセットトップボックスの出荷数は、特に飽和状態のケーブルプラットフォームから電話会社や衛星などへの加入者の移行によって、同期間に下落するが、有料テレビプラットフォームへの新規加入が増加しているアジア太平洋地域やラテンアメリカでは、力強い成長が継続するだろう。この調査レポートは、セットトップボックスの世界の出荷数と収益をプラットフォーム毎(ケーブル、衛星、地上波デジタル放送、IP テレビ)と地域毎(北米、ラテンアメリカ、西欧、東欧、アジア太平洋、中東・アフリカ)に記載している。地上波デジタルへの移行、デジタルケーブルへの移行、高画質サービス製品、ハイブリッドセットトップボックス(CATVとIP テレビ、DBSとIP テレビ、DBSと地上波デジタルテレビ)、ケーブルビデオゲートウェイなどの、セットトップボックス市場の質的・量的な傾向を記載している。

(原文)

The worldwide set-top box market is expected to grow slowly, from 221 million in 2011 to 242 million in 2016, with a small dip forecast in 2012 as a lull exists between North American and Western European digital transitions (which are largely complete), and those in other parts of the world (which have not yet reached critical mass). Set-top box shipments through the period decline in North America and Western Europe (especially in saturated cable platforms that are losing subscribers to telco and satellite alternatives), while they grow strongly in Asia-Pacific and Latin America, where subscribers are gaining access to pay-TV platforms for the first time. This report provides worldwide shipments and revenues of set-top boxes segmented by platform (cable, satellite, DTT, IPTV) and geography (North America, Latin America, Western Europe, Eastern Europe, Asia-Pacific, and Middle East-Africa). It describes quantitative and qualitative trends in the STB markets, including digital terrestrial transitions, digital cable transitions, HD service offerings, hybrid (CATV-IPTV, DBS-IPTV, and DBS-DTT) set-top boxes, and the adoption of cable video gateways.

調査レポートの詳細は、<http://www.dri.co.jp/auto/report/abi/abistb11.htm> をご参照ください。

産業用の無線センサーネットワーク

ABIresearch

WirelessHART、ISA100.11a、WIA-PA、ZigBee

米国調査会社 ABI リサーチの調査レポート「Industrial Wireless Sensor Networks: WirelessHART, ISA100.11a, WIA-PA, and ZigBee」のサマリー

(日本語訳)

産業用オートメーションへの無線の採用は目新しいことではないが、利用可能な製品の商業的な価値とコストによって制限されている。過去数年間にわたって、シリコンプラットフォームの規格や標準化された通信プロトコルのサポートによって、産業用オートメーションにおけるWSNは促進されるようになってきた。しかし、産業用オートメーション市場では、基本的に信頼性と長期耐用性が要求されるし、それを保証する特許技術が使用されていく。しばしば取りざたされる標準化されたWSN採用の抑止要因のひとつが、IEEE 802.15.4シリコンプラットフォームの標準化にもかかわらず、シリコンを使用する多くのプロトコルもまた今後採用されるかもしれないという事実である。この調査レポートは、産業用のWSNのビジネスチャンス进行分析し、利用が促進する所や使われない所、WirelessHART、ISA100.11a、WIA-PAなどの主要な規格の採用、WSN採用が市場に対してもつ意義、産業用オートメーションにおけるWSNを実現する主要企業などについて記載している。

(原文)

Wireless adoption within industrial automation is not new, but it has been limited by the proprietary nature and cost of the available products. Over the past few years, support for a standard silicon platform and standardized communications protocols have emerged to boost WSN within industrial automation. However, reliability and longevity are essential attributes demanded within the industrial automation market and so proven proprietary technologies continue to be used. Among the deterrents often cited for standardized WSN deployment is the fact that — despite standardization on the IEEE 802.15.4 silicon platform — there is still concern regarding the multiple protocols that may yet be adopted using that silicon. This report analyzes the market opportunity for WSN in industrial deployments, detailing where it will find traction (and where it will not); the implications of the key standards efforts including Wireless HART, ISA-100.11a, and WIA-PA; the implications WSN adoption will have for the market; and the key players involved in making WSN a reality in industrial automation.

調査レポートの詳細は、<http://www.dri.co.jp/auto/report/abi/abiwia11.htm> をご参照ください。

株式会社 データリソース

東京都港区赤坂 1-14-5-N313 (〒107-0052)

電話 03-3582-2531

ファックス 03-3582-2861

www.dri.co.jp

電子メール info@dri.co.jp

貨物用コンテナのセキュリティとトラッキング **ABIresearch**

RFID、RTLS、OCR、GPS、センサ、衛星、セルラー、Wi-Fi 技術

米国調査会社 ABI リサーチの調査レポート「Cargo Container Security and Tracking: RFID, RTLS, OCR, GPS, Sensors, Satellite, Cellular, and Wi-Fi Technologies」のサマリー

(日本語訳)

9/11 後に、多くの規則や法規制が導入され、貨物用コンテナのセキュリティとトラッキング産業は、高度なソリューションを携えてこの市場に参入しようとする多くのベンダによって、ついに大きく躍進するだろうとみられている。少なくとも北米や西欧で、港湾のトレーラーヤードにおける RFID ベースのポイントソリューションは確立しつつあるが、より高度な GPS ベースのソリューションは、Skybitz、DB Schenker、Starcom、Pointer Telocation などのベンダがソリューションを提供できるにもかかわらずあまり有望ではない。この調査レポートは、港湾や海上などの港湾環境での国際貿易ルートでの輸送にわたるフリート(貨物)コンテナのトラッキングとセキュリティについて調査している。様々な無線技術によって、リアルタイムの世界的なトラッキングやセキュリティ、通信機能を可能にする、港湾とインターモーダル(各種輸送機関の統合)の資産管理ソリューションについても調査している。アクティブ RFID、RTLS、GPS 技術に主眼を置いた、カーゴコンテナのトラッキングとセキュリティのエネブラとしての、次世代の無線技術の採用にも注目している。バーコードや OCR などの従来のトラッキング、セキュリティ(メカニカルシール)、衛星、GPRS、Wi-Fi などの通信技術についても調査している。

(原文)

With a lot of regulations and legislation being introduced in the aftermath of 9/11, expectations the cargo container security and tracking industry would finally take off were high, prompting many vendors to enter this market with advanced solutions. While RFID-based point solutions at port yards are becoming more established - at least in North America and Western Europe - uptake of more advanced GPS-based solutions has been disappointing, despite several available solutions from vendors such as Skybitz, DB Schenker, Starcom, and Pointer Telocation. This study explores the tracking and security of freight (cargo) containers as they are transported across international trade routes, including maritime environments (e.g. ports, oceans, etc.). The report covers maritime and intermodal asset management solutions that are enabled with a family of integrated wireless technologies to provide real-time, global tracking, security, and communications features. The research also focuses on the adoption of next-generation wireless technologies as enablers of cargo container tracking and security with a primary focus on active RFID, RTLS, and GPS technologies. Legacy tracking (barcode, OCR), security (mechanical seals), and communications (satellite, GPRS, Wi-Fi) technologies are also covered.

調査レポートの詳細は、<http://www.dri.co.jp/auto/report/abi/abicst11.htm> をご参照ください。

スマートグリッドのセキュリティ **ABIresearch**

サイバーセキュリティと産業用コントロール技術の新世代

米国調査会社 ABI リサーチの調査レポート「Smart Grid Security: The Next Quadrant for Cyber Security and Industrial Control Technology」のサマリー

(日本語訳)

今日、ユーティリティは、北米電力信頼性評議会(North American Electric Reliability Corporation:NERC)や連邦エネルギー規制委員会(Federal Energy Regulatory Commission:FERC)などの規制機関や政府機関からの、産業用通信システム、データ管理、サイバーアタック、物理的防御へのセキュリティ強化の需要や信頼性の要求の高まりに直面している。現在の電力グリッドからスマートグリッドへの移行は、すべての国々において最も緊急の課題のひとつである。この調査レポートは、ユーティリティやスマートグリッドソリューションプロバイダが直面する現在や将来の危機について述べている。エネルギー関連業界を狙う「Night Dragon」のようなサイバー攻撃によるリスクや脅威に対抗する産業用コントロールシステムの重要課題、政府の法規制の詳細な概観、現在これらのリスクに対抗している主要なスマートグリッド企業についても記載している。

(原文)

Today's utilities face growing demands to enforce security and reliability requirements for industrial communication systems, data management, cyber-attacks, and physical protection from regulators and government bodies such as the North American Electric Reliability Corporation (NERC) and the Federal Energy Regulatory Commission (FERC). The transition from the present state of electric grids to smart grids is one of the most pressing matters for all countries. This report will provide readers with the current and future dangers smart grid utilities and smart grid solution providers will face. The study examines the most important industrial control systems at risk and potential threats from cyber-attacks such as the dubbed "Night Dragon." Additionally, the report will present a detailed overview of what government regulators and leading smart grid companies are currently doing to stop these risks.

調査レポートの詳細は、<http://www.dri.co.jp/auto/report/abi/abigridsec11.htm> をご参照ください。

株式会社 データリソース

東京都港区赤坂 1-14-5-N313 (〒107-0052)

電話 03-3582-2531

ファックス 03-3582-2861

www.dri.co.jp

電子メール info@dri.co.jp

デジタル衛星 STB 出荷数の成長は 2012 年に 14%に近づく



米国調査会社インスタット社の調査レポート

「世界の衛星放送向けセットトップボックス市場調査 2011 年

Worldwide Satellite STBs: Gaining Momentum in Emerging Markets」のプレスリリース

(日本語訳)

アリゾナ州スコッツデール、2011 年 11 月 9 日

近年、世界の衛星セットトップボックス市場は、加入者数と SD から HD への転換が市場に与える影響によって、マインナス成長にはなりにくい。しかしこの傾向は変化しようとしており、2012 年にはデジタル衛星セットトップボックスの出荷数は 2012 年に約 14%となるだろうと米国調査会社インスタット社は予測している。

「新しい技術は、多くの方法で、出荷数の予測値を高めるだろう。プロセッサはより強力になって、ダウンロードできるアプリケーションやおすすめエンジンによって、より個別化した視聴体験を可能にしている。グラフィック機能の改良によってもユーザの使用感は改善し、衛星サービスプロバイダは新しい機能の組合せによって消費者獲得の競争力をつけている」とインスタット社の調査主任 Michelle Abraham 氏は語る。

インスタット社は、下記についても調査した。

- * アジア市場は緩やかな加入者数の増加から安定的になるだろう
- * 北米では、クライアントデバイスがすべてセットトップボックスになるわけではないので、サーバ/クライアントモデルへの移行は出荷数に影響を与える
- * インドの市場は 6 つのプラットフォームが加入者を競い合って大きく成長した
- * 2009 年と同様に、Pace は 2010 年の衛星セットトップボックスのトップサプライヤとなり、テクニカラーとエコスターがその後に続いた
- * SD DVR は、コスト意識の高い市場では残るかもしれないが、いくつかの市場では HD DVR にとって代わられるだろう

インスタット社の調査レポート「世界の衛星放送向けセットトップボックス市場調査 2011 年 - Worldwide Satellite STBs: Gaining Momentum in Emerging Markets」は、世界のデジタル衛星セットトップボックス市場の下記のような項目の 5 年間の予測を提供している。

- * 衛星セットトップボックスの地域毎、タイプ毎の 2015 年までの出荷数、収益、平均価格の予測
- * HD と SD、DVR と非 DVR の区分
- * 新しい機能と技術の分析
- * 2015 年までのセットトップボックスの部品表 (BOM) の予測
- * 地域毎の市場概観

この調査レポートは、有料テレビオペレータが消費者世帯へのゲートウェイを可能にするセットトップボックスと、すべての有料テレビセットトップボックスの世界市場とオペレータの採用、加入者数の分析と予測を行うインスタット社の有料テレビ調査を組み合わせて提供するインスタット社の「Global Pay-TV Services Information Service」の一環である。

(原文) Digital Satellite STB Unit Shipment Growth to Approach 14% in 2012

SCOTTSDALE, Ariz., November 9, 2011 - The worldwide satellite STB market has experienced slow to negative growth in recent years as both the number of subscribers and the conversion from SD to HD has impacted the market. That trend is about to change as new In-Stat (www.in-stat.com) research forecasts that digital satellite STB unit shipments will grow by nearly 14% in 2012.

“New technology in many ways is powering the expected uptick in unit shipments,” says Michelle Abraham, Research Director. “Increasingly powerful processors enable a more personalized viewing experience with downloadable apps and recommendation engines. An improved graphics capability also enhances the user experience, providing satellite service providers with a new feature set to compete for subscribers.”

New research findings include:

- * The Asian market is expected to stabilize, following slow subscriber growth.
- * In North America, the move to a server/client model impacts shipments because client devices will not all be set top boxes.
- * The Indian market has experienced huge growth with 6 platforms competing for subscribers.
- * Pace was once again the top supplier of satellite STBs in 2010 with Technicolor and EchoStar following as was the case in 2009.
- * SD DVRs will disappear in some markets in favor of HD DVRs, although we expect them to remain in some cost-conscious markets.

Recent In-Stat research, Worldwide Satellite STBs: Gaining Momentum in Emerging Markets (#IN1104959ME), provides five-year forecasts for the worldwide market for digital satellite set top boxes including: * Cellular devices (basic and feature phones, smartphones)

- * Unit, revenue, and ASP forecasts of satellite set top boxes by region and by type through 2015.
- * Segmentation of HD and SD, as well as DVR and non-DVR.
- * Analysis of new features and technology
- * STB bill of materials forecast through 2015.
- * Regional market overviews.

This research is part of In-Stat's new Global Pay-TV service which provides combined coverage of set top boxes (STBs) which enable pay-TV operators a gateway into their customers' homes and In-Stat's pay-TV research which provides comprehensive analysis and forecasts of the worldwide market for all types of pay-TV set top boxes, the operators that deploy them, and their subscriber bases.

調査レポートの詳細は <http://www.dri.co.jp/auto/report/instat/in1104959me.htm> をご参照ください。

調査回答者の 75%は「理想的な携帯電話の機能」として 4G をあげた



米国調査会社インスタット社の調査レポート
「次世代携帯電話：ユーザが選ぶ今後の端末デザイン
Next-Generation Phones: Consumer Insights Drive Future Handset Designs」のプレスリリース

(日本語訳)

アリゾナスコッツデール、2011年10月25日

スマートフォンやその他のモバイル PC デバイスの急速な普及と成長によって、理想的な機能の組合せは新しい段階へと押し進められた。その結果、今日の多くの携帯電話は、デジタルカメラや GPS、Eメール機能、タッチスクリーン、スピーカーフォンなどの多くの機能を搭載している。米国調査会社インスタット社は、回答者が「理想的」と考える携帯電話にはどのような機能が搭載されてほしいかを調査し、驚いたことに 75%が 4G 機能をあげたと報告している。

「4G は携帯電話の購入者にとって重要な機能であるものの、4G 周辺には様々な混乱がある。調査回答者に、どのキャリアが最も速度が早い 4G を提供できるかを質問した時、大多数の回答者が『知らない』または『どのキャリアでも同じ』と回答した」とインスタット社のアナリスト Greg Potter 氏は語る。

インスタット社は、下記についても調査した。

- * 消費者は、OS の選択において保守的になってきており、ひとつの携帯電話用 OS しか検討しないとしている回答者は、昨年の 23% に比べて今回は 36% に増加している
- * 調査回答者の T モバイルのユーザの 20% 以上が、今後 1 年間でキャリアを変えると回答した
- * 調査回答者の 40% 以上が、NFC 決済システムの利用にまったく興味がないと回答した
- * ブルートゥースを利用する、または利用したいと回答する人々の比率は下落しており、2006-2011 年に 45% から 35% になった

インスタット社の調査レポート「次世代携帯電話：ユーザが選ぶ今後の端末デザイン — Next-Generation Phones: Consumer Insights Drive Future Handset Designs」は、携帯電話の機能に関する 6 年目の調査であり、1208 人の回答者から得た、消費者の現在の携帯電話や次に購入する予定の携帯電話の機能についての関心を査定し、数値化している。さらに、位置情報サービス、モバイル決済のための携帯電話の財布機能、携帯電話での無線ホットスポット接続、4G サービスなどへのエンドユーザの考えをも記載している。

この調査レポートは、インスタット社の「Mobile Devices」サービスの一環である。携帯電話、スマートフォン、MID、タブレット、ミニノート/ネットブック、ノート PC などの、モバイル通信とコンピュータデバイスの市場分析と予測を提供している。

(原文) 75% of Survey Respondents Include 4G as "Ideal Phone Feature"

SCOTTSDALE, Ariz., October 25, 2011 - The rapid adoption and growth of smartphones and of other mobile computing devices have pushed the expectation needle for the ideal feature set to new levels. As a result, most handsets today include a multitude of features like a digital camera, GPS, email capability, touchscreen, and speakerphone, among others. Recent In-Stat (www.in-stat.com) research provides some insight into what features are included in respondents' ideal phone, and surprisingly, 75% of the surveyed respondents included 4G in that category.

"Although 4G is an important feature for handset buyers, there is a lot of confusion surrounding 4G," says Greg Potter, Analyst. "When survey respondents were asked which carrier offered the fastest 4G speeds, the majority of the respondents either didn't know or felt they were the same across carriers."

Additional survey findings include:

- * Consumers are becoming more entrenched in their choice of operating system, 36% will only consider one phone OS, compared with only 23% last year.
- * Over 20% of T-Mobile users answering the survey said they were planning on switching carriers in the next 12 months.
- * Over 40% of respondents have no interest at all in using an NFC payment system.
- * The percentage of people willing or might be willing to pay for Bluetooth is declining, going from 45% in 2006 to 35% in 2011.

Recent In-Stat research, Next-Generation Phones: Consumer Insights Drive Future Handset Designs (#IN1105061WH), is based on In-Stat's sixth annual future phone study (1,208 respondents), which identifies and quantifies users' interest in the features and capabilities of their current phone and what features and capabilities they want in their next phone.

In addition, primary research shows what end-users think about:

- * Location-based services
- * Phones that act as a wallet for mobile payments
- * Accessing wireless hotspots with a phone
- * 4G services

This research is part of In-Stat's Mobile Devices service, which provides analysis and forecasts of the market for mobile communications and computing devices, including cell phones, smartphones, MIDs, tablets, mini-notes/netbooks, and notebooks.

調査レポートの詳細は <http://www.dri.co.jp/auto/report/instat/in1105061wh.htm> をご参照ください。

NFC チップの出荷数は 2015 年に 12 億を越える



米国調査会社インスタット社の調査レポート
「世界の NFC チップとタグ市場の分析と予測
NFC Chips and Tags: Worldwide Market Analysis and Forecast」のプレスリリース

(日本語訳)

アリゾナ州スコッツデール、2011 年 10 月 24 日

2015 年にモバイル決済のユーザ数が 3 億 7500 万以上に増加するとともに、多くのモバイルソリューションの根本的な通信技術である近距離通信 (NFC) 機能を備えた装置の需要も増大するだろう。米国調査会社インスタット社は、NFC 技術の採用は世界の NFC チップセットの出荷数を押し上げ、2015 年に 12 億に達するだろうと予測している。

NFC は、非常に近接する 2 つの装置間の通信を支援する技術の組合せである。少量のデータを短距離で交換することができる NFC リンクは、設置が非常に早くできる。これは、他の無線技術と比較して独特であり、モバイル決済などの、少量のデータを迅速に交換するような使用場面においては理想的なソリューションを提供できる。

「NFC チップの価格が下落し、NFC 無線がその他のチップ機能と同時に搭載されるようになれば、携帯端末への NFC 搭載の意義は、そのコストを上回るようになるだろう。コンボチップ (複数の無線技術で接続できるチップセット) の成長も、すでに市場に幅広く浸透している技術に便乗しての NFC 無線の成長に貢献するだろう。例えば、Bluetooth 無線は 100% の普及率だが、NFC 無線を統合できるため、OEM は NFC を含む選択をしやすくなるだろう」とインスタット社の調査主任 Allen Noguee 氏は語る。

インスタット社は、下記についても調査した。

- * 現在、NFC 市場では、NFC で可能になる決済アプリケーションから、マーケティングアプリケーションへの移行に注目が集まっている。この移行の一例として、2011 年後半から 2012 年にかけて、小売店が看板や屋外広告の戦略にスマートポスターを取り入れるというような試行プログラムを開始するだろうとインスタット社は予測している
- * NFC の普及率は、2015 年に世界で 30% に達するだろう
- * NFC チップの世界の年間出荷数は、予測期間中に CAGR129% で成長するだろう

インスタット社の調査レポート「世界の NFC チップとタグ市場の分析と予測 — NFC Chips and Tags: Worldwide Market Analysis and Forecast」は、NFC デバイスとコンポーネントの市場を洞察しています。NFC とその他の補完的なあるいは競争的な無線技術と比較し、モバイル決済などの市場促進要因と阻害要因にも注目しています。NFC チップとタグの出荷数、NFC チップ搭載の携帯電話の出荷数、NFC 読み取り機用のチップの出荷数、NFC 利用可能なインフラ、スマートポスターやマーケティング向けの NFC タグ出荷数などの予測と、アジア太平洋・欧州・南北アメリカの地域の分析、Broadcom、Inside Secure、NXP Semiconductors、ルネサスエレクトロニクス、三星電子、STMicroelectronics などのベンダのプロフィールなども記載しています。

この調査レポートは、プロセッサ、画像処理、モデム、GPS、ディスプレイ、メモリ、ストレージ、OS、ソフトウェア、ヒューマンインターフェースなどの次世代モバイルデバイスを実現する技術、IP、半導体の市場を分析するインスタットの「Mobile Technologies」サービスの一環である。

(原文) NFC Chip Shipments to Surpass 1.2 Billion by 2015

SCOTTSDALE, Ariz., October 24, 2011 - As the number of mobile payment users grows to over 375 million in 2015, the demand for devices with near field communications (NFC), the underlying communications technology behind many mobile payment solutions, grows as well. New research from In-Stat (www.in-stat.com) forecasts that adoption of this technology will push global annual shipments of NFC chips to over 1.2 billion by 2015.

NFC is a set of technologies that supports communications between two devices in close proximity to each other. An NFC link is very quick to set up, enabling small amounts of data to be exchanged over short distances. This capability is unique compared to other wireless technologies, it and makes NFC an ideal solution where quick exchange of small amounts of data is paramount to quality user experiences such as mobile payments.

“As the costs of NFC chips decline, and NFC radios are combined with other chip functions, the cost to integrate NFC into handsets will be outweighed by the benefits,” says Allen Noguee, Research Director. “The growth of combo chips will also allow NFC radios to piggyback on technology that already has significant penetration in the market. For example, Bluetooth radios, which currently have 100% market penetration, can be integrated with NFC radios, making the choice to include NFC easy for OEMs.”

Recent research findings include::

- * Today, the focus of the NFC market is shifting from payment applications that can be enabled by NFC, to marketing applications. With this focus shift, we expect retailers to begin pilot programs in the latter part of 2011 and into 2012 that incorporate smart posters into their signage and outdoor advertising strategies.
- * NFC will reach 30% global penetration by 2015
- * Global annual shipments of NFC chips will grow at a CAGR of 129% over the forecast period.

Recent In-Stat research, NFC Chips and Tags: Worldwide Market Analysis and Forecast (#IN1105140SI), provides insights into the market for NFC devices and components. It compares and contrasts NFC with other complementary and competitive technologies and looks at market drivers, including mobile payments, and market barriers.

Forecasts include:

- * NFC chip and tag shipments
- * Mobile handsets shipping with NFC chips
- * NFC chip shipments for readers
- * NFC-enabled infrastructure
- * NFC tag shipments for smart posters and marketing
- * Regional analysis includes Asia Pacific, Europe, and Americas
- * Vendor profiles include Broadcom, Inside Secure, NXP Semiconductors, Renesas Electronics, Samsung Semiconductor, and STMicroelectronics

This research is part of In-Stat's Mobile Technologies service, which provides analysis of the market for technologies, IP and semiconductors that enable next-generation mobile devices, including processors, graphics, modems, GPS, displays, memory, storage, operating systems, software, and human interfaces.

調査レポートの詳細は <http://www.dri.co.jp/auto/report/instat/in1105140si.htm> をご参照ください。

株式会社 データリソース

東京都港区赤坂 1-14-5-N313 (〒107-0052)

電話 03-3582-2531

ファックス 03-3582-2861

www.dri.co.jp

電子メール info@dri.co.jp

タッチスクリーン業界における透明導電膜市場 調査レポートをナノマーケット社が出版



米国調査会社ナノマーケット社の調査レポート
「タッチパネルセンサー向け透明導電膜市場調査 / Markets for Transparent Conductors
in the Touch Screen Sensor Market 2012」のプレスリリース

(日本語訳)

ヴァージニア州グレンアレン、2011年11月15日

米国の調査会社ナノマーケット社の調査レポート「タッチパネルセンサー向け透明導電膜市場調査 - Markets for Transparent Conductors in the Touch Screen Sensor Market 2012」は、スマートフォンやタブレットPCから情報キオスクやATMなどのシステムの、幅広いタッチスクリーン機能を提供するために使用されているセンサの、インジウムスズ酸化物(ITO)と新しい透明導電膜の市場を見極め、定量化している。この調査レポートはタッチスクリーン技術全般を分析しているが、特に容量性とアナログ抵抗性の技術に注目している。また、ディスプレイメーカー自身がインセル技術やオンセル技術でディスプレイにタッチセンサの透明導電膜を統合することによる、サプライチェーンに対する影響について記載している。

タッチディスプレイセンサのセクターは、すでにITOに大きく移行している。この調査レポートは、それを踏まえて、タッチスクリーンセクターの導電膜ポリマーや、ITO以外の透明導電酸化物、ナノシルバーク、カーボンナノチューブインクの役割を詳細に査定している。調査対象企業は、3M、アグファ、アップル、AUO、Cambrios、Carestream、Cima NanoTech、大日本印刷、ダウケミカル、Ferro、富士通、Heraeus、日立、コダック、LG、日本写真印刷、日東電工、尾池工業、Optomec、PolyIC、Saint-Gobain、三星、シグマテクノロジー、SKC Haas、住友、サンケミカル、ソルティア、Synaptics、TE Connectivity、帝人、東洋紡績、東レ、Unidymである。8年間の市場予測をアプリケーション毎と使用されているマテリアル毎に記載している。(後略)

(原文) **NanoMarkets Releases Report on Markets for Transparent Conductors in the Touch Screen Industry**

Published: November 15, 2011

Glen Allen Virginia: Industry analyst firm NanoMarkets announced the release of its latest market report on transparent conductors titled, "Markets for Transparent Conductors in Touch Screen Sensors - 2012." In this report, NanoMarkets identifies and quantifies the markets for both indium tin oxide (ITO) and emerging transparent conductors for the sensors used to provide touch-screen capabilities in systems ranging from smartphones and tablet computers to information kiosks and ATMs. This report analyzes the full range of touch-screen technologies, but focuses on the dominant projected capacitive and analog resistive technologies. It also discusses the impact on the transparent conductor supply chain of touch sensors being integrated into the display by display makers themselves using in-cell and on-cell technology.

The touch display sensor sector has already made significant moves beyond ITO. With this in mind, this report also provides a detailed assessment of the role of conductive polymers, non-ITO transparent conducting oxides, nanosilver inks and carbon nanotube inks in the touch sector. Among the firms that are discussed in this report are: 3M, Agfa, Apple, AUO, Cambrios, Carestream, Cima NanoTech, Dai Nippon Printing, Dow Chemical, Ferro, Fujitsu, Heraeus, Hitachi, Kodak, LG, Nissha Printing, Nitto Denko, Oike, Optomec, PolyIC, Saint-Gobain, Samsung, Sigma Technologies, SKC Haas, Sumitomo, Sun Chemical, Solutia, Synaptics, TE Connectivity, Teijin, Toyo Baseki, Toray, and Unidym. The report also contains eight-year forecasts, broken out by application and type of material used.

From the Report:

Transparent conductive oxides, conductive polymers and nanosilver inks have already penetrated the touch sensor market. Buoyed by this success, new transparent conducting materials firms are rushing into the touch sector. However, this report warns that there will not be room in this sector for all new entrants as consumption of transparent conductors by display touch sensors in 2016 is unlikely to exceed \$300 million.

Success will go to transparent conductor firms who have built strong partnerships with powerful touch sensor makers in Asia and especially those transparent conductor firms who can (1) demonstrate total costs of deposition and/or patterning that are lower than ITO or (2) transparency and conductivity performance that are improvements on ITO. Until recently a selling feature of some non-ITO transparent conductors was that they were not as easily damaged by pokes from styluses and fingers than ITO. With the rise of projected capacitive touch and the decline of analog resistive touch, this message is less important.

The report notes that while today touch sensors are provided by third party firms, in the future touch sensors will be built into displays by the display makers themselves. In turn, this means that transparent conductor firms will be selling to large Asian LCD manufacturers; notoriously hard customers to reach. On the other hand, for those who succeed the touch sector may well create an entrée into the huge market for transparent conductor material used in the LCD displays themselves.

調査レポートの詳細は、<http://www.dri.co.jp/auto/report/nano/nano42911.htm> をご参照ください。

株式会社 データリソース

東京都港区赤坂 1-14-5-N313 (〒107-0052)

電話 03-3582-2531

ファックス 03-3582-2861

www.dri.co.jp

電子メール info@dri.co.jp

エネルギーハーベスティングデバイスの出荷台数は、 2015年までに2億3500万台に達する



米国調査会社パイクリサーチ社の調査レポート
「環境発電市場の分析と予測：消費者と産業アプリケーション向け技術（太陽光/圧電/電磁/熱電）
Energy Harvesting: Photovoltaic, Piezoelectric, Electromagnetic, and Thermoelectric Technologies for
Consumer and Industrial Applications: Market Analysis and Forecasts」のプレスリリース

（日本語訳）

エネルギーハーベスティングは、もともとは、周囲（環境中）のエネルギーを電気エネルギーに変換して利用可能にし、主に電池に依存してきたポータブル電子機器への電力供給に利用しようとするものであった。昨今のエネルギーハーベスティング技術の進化によって、その応用分野は、家電や個人向けの携帯電子機器から、医療機器、自動車システム、軍用機器に至る、バッテリーを使用する様々な製品にまで拡大している。

米国の環境エネルギーなどの地球環境保護に関するクリーン技術関連市場の専門調査会社パイクリサーチ社の調査レポート「環境発電市場の分析と予測：消費者と産業アプリケーション向け技術（太陽光発電/圧電発電/電磁発電/熱電発電） - Energy Harvesting: Photovoltaic, Piezoelectric, Electromagnetic, and Thermoelectric Technologies for Consumer and Industrial Applications: Market Analysis and Forecasts」によると、エネルギーハーベスティングデバイス出荷台数は、今後数年間で大きく成長することが予測される。すなわち、2010年には、主に腕時計や無線センサーネットワーク向けなどの合計2930万台であったデバイス出荷台数が、2015年には民生用から産業用まで様々な分野向けに拡大して、2億3540万台にまで増加するだろう。

「利便性と経済性の両要因により、エネルギーハーベスティング技術は大きく促進するだろう。つまり、機能と技術コストが改善することで、エネルギーハーベスティングは、民生用と産業用アプリケーションの幅広い分野で、従来の電池に対するますます魅力的な代替手段になっていくであろう」と、パイクリサーチ社の社長 Clint Wheelock 氏は語る。

パイクリサーチ社の分析では、エネルギーハーベスティングの応用分野のうち、消費者市場は、2015年までのすべての出荷台数の約42%を占めるだろうと予測している。この分野における主要なアプリケーションには、携帯電話、ノートパソコン、リモコン、携帯型照明、腕時計があり、これらの市場が継続的に成長するだろう。

また、産業用アプリケーションは、毎年100%を超える複利成長率で伸び、エネルギーハーベスティング市場の大部分を占めるであろうと予測している。予測期間中のこの新興市場には主に、無線センサーネットワーク（産業部門の大多数を占める）、軍用機器、医療機器、車載機器などがあるだろう。

環境発電に使用される主な技術は、太陽光発電(PV)、熱電、圧電、電磁などがある。2015年までの間に、太陽光エネルギーハーベスティング技術は、総収入の約40%シェアを獲得し、市場で最も注目される技術になるだろう。また、電磁利用と圧電利用技術はそれぞれ約25%、熱電技術は12%のシェアとなるだろうとパイクリサーチ社は予測している。

この調査レポートは、既存及び新規の技術を深く分析し、15の民生用と産業用のアプリケーション分野を紹介している。エネルギー変換のための太陽光発電、圧電、電磁、熱電技術を調査し、ポータブル、パーベシブ、自動システムで作動している最も一般的なエネルギーハーベスティング技術の主要な実用化戦略の評価を加えている。アプリケーション別及び世界の地域別に、2015年までの主要企業の詳細な紹介や、市場規模予測も提供している。

（原文） Energy Harvesting Unit Shipments to Reach 235 Million Annually by 2015

November 10, 2011

Energy harvesting is the conversion of ambient energy to usable electrical energy for purposes of powering portable electrical devices that in many cases rely heavily on batteries. The applications for energy harvesting technologies are as diverse as the variety of products that use batteries today, ranging from consumer electronics and personal accessories to medical devices, automotive systems, and military equipment. According to a new report from Pike Research, unit shipments for energy harvesting enabled devices will experience strong growth over the next few years, increasing from 29.3 million units in 2010 (mostly kinetic wristwatches and wireless sensor networks) to 235.4 million units by 2015 (comprising a much greater diversity of consumer and industrial applications).

"The adoption of energy harvesting technologies is being driven by both convenience and economic factors," says Pike Research president Clint Wheelock. "As the capabilities and cost of the technology improves, energy harvesting will be an increasingly attractive alternative to traditional batteries for a wide range of consumer and industrial applications."

Pike Research's analysis indicates that the consumer market for energy harvesting will represent approximately 42% of all unit shipments by 2015. Key applications in this sector include mobile phones, laptop computers, remote controls, portable lighting, and the continuing market for wristwatches powered by kinetic energy. The cleantech market intelligence firm forecasts that industrial applications will represent the majority of the energy harvesting market, with a compound annual growth

rate in excess of 100% for the sector as a whole. Key emerging industrial markets during that period will include wireless sensor networks (which will represent a large majority of the industrial sector), military devices, medical devices, and automotive devices.

The principal technologies used for the transduction of ambient energy into usable electrical energy include photovoltaic (PV), thermoelectric, piezoelectric, and electromagnetic. Pike Research forecasts that, between now and 2015, PV energy harvesting technologies will be most prominent in the market, capturing approximately 40% of total revenue share by the end of that period. Electromagnetic and piezoelectric technologies will each garner about one-quarter of the total market, with thermoelectric energy harvesting representing approximately 12%.

Pike Research's report, "Energy Harvesting", analyzes existing and emerging energy harvesting technologies in depth, looking at 15 consumer and industrial application segments. The report examines photovoltaic, piezoelectric, electromagnetic, and thermoelectric transduction methods for converting ambient energy, and includes an assessment of key implementation strategies for the most common energy harvesting technologies operating in portable, pervasive, and autonomous systems. Key industry players are profiled in depth and market forecasts, segmented by application and world region, are provided through 2015..

調査レポートの詳細は、<http://www.dri.co.jp/auto/report/pike/pikeharv11.htm> をご参照ください。

世界で発表または展開中の エネルギー貯蔵プロジェクトは約 600

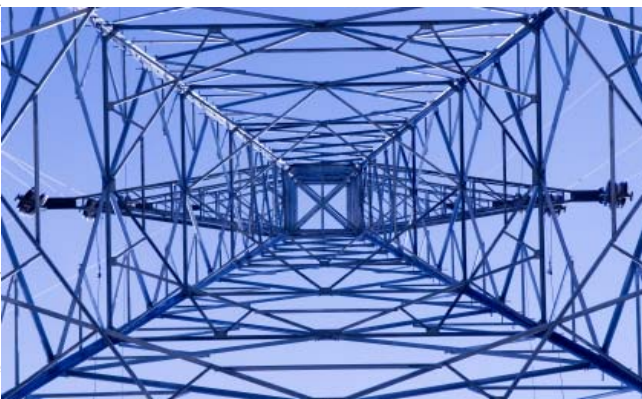


米国調査会社パイクリサーチ社の調査レポート
「世界のエネルギー貯蔵 2011 年第 4 四半期:計画段階および展開段階のエネルギー貯蔵事業の地域毎の詳細
Energy Storage Tracker 4Q11 / Planned and Deployed Energy Storage Projects by World Region,
Market Segment, Technology, and Application」のプレスリリース

(日本語訳)

2011 年 10 月 25 日

配電網の運用において幅広く長期と短期の用途のバランスを保つ目的で使用されるエネルギー貯蔵技術は、世界市場で急成長している。過去 10 年間の新規プロジェクトの増加によって、技術開発やコスト削減などの多くの課題が残っているにもかかわらず、世界中で約 600 のエネルギー貯蔵に関するプロジェクトが発表または採用されたと、米国の環境エネルギーなどの地球環境保護に関するクリーン技術関連市場の専門調査会社パイクリサーチ社の調査レポート「世界のエネルギー貯蔵 2011 年第 4 四半期:計画段階および展開段階のエネルギー貯蔵事業の地域毎の詳細(市場セグメント/技術/アプリケーション) - Energy Storage Tracker 4Q11:Planned and Deployed Energy Storage Projects by World Region, Market Segment, Technology, and Application」は報告している。



「エネルギー貯蔵は、電力網のさまざまなレベル毎に、効率を改善する機会を提供している。エネルギー貯蔵市場は活発であるが、ほとんどの技術が未熟である。現在稼働している貯蔵プロジェクトの多くは、数十年来使用されてきた揚水式水力発電だが、多くの関連企業が、高度な電池技術、圧縮空気エネルギー貯蔵、フライホイール、蓄熱などの新技術の実証のために多額の投資を行っており、革新は新たな段階に入っている」とパイクリサーチ社の調査アナリスト Anissa Dehamna 氏は語る。

さらに、この分野における様々な技術、アプリケーション、導入のリードタイム(着手から完了までの時間)がバラバラであるために、多くの参入企業が市場の全体像を把握することを困難にしていると Dehamna 氏は語る。この調査レポートは、世界中のプロジェクトの場所、地域、規模、状況、期間、市場分野、アプリケーション、財務的な状況などのデータを系統的に編集し、市場全体の主要な傾向を特定している。

この調査レポートは、世界のエネルギー貯蔵プロジェクトについて、様々なアプリケーションや技術セグメントの主要な傾向を質的・量的に分析する、わかりやすいデータベースを提供している。それぞれのプロジェクトの容量、位置、一時的・二次的アプリケーション、利用された技術、実施に必要な投資額などの主要なファクトデータと図表も提供している。

(原文) Nearly 600 Energy Storage Projects have been Announced or Deployed Worldwide

October 25, 2011

Energy storage technologies, which offer the promise of enabling a wide range of long-duration and short-duration applications for purposes of balancing electricity grid operations, are gaining increased momentum in the global marketplace. While the industry still faces a variety of challenges including technology development and the need for cost reduction, a new tracker report from Pike Research indicates that nearly 600 energy storage projects have been announced or deployed worldwide, with a surge of new project activity during the past decade.

“Energy storage offers the opportunity to significantly improve the efficiency of the grid at every level,” says research analyst Anissa Dehamna. “The energy storage market is dynamic, but still immature where most technologies are concerned. The vast majority of active storage projects are utilizing decades-old pumped hydro storage technologies, but the industry has entered a new period of innovation as a number of market players invest considerable resources to prove emerging technologies such as advanced batteries, compressed air energy storage, flywheels, and thermal storage.”

Dehamna adds that the wide variety of technologies, applications, and lead times for installations in this sector can make it difficult for many industry participants to analyze the overall market. Pike Research's tracker aims to identify key market trends on a holistic basis by systematically compiling the available data on all projects around the world including analysis of site, region, size, status, duration, market segment, applications and funding profiles.

Pike Research's "Energy Storage Tracker" provides a comprehensive database of worldwide energy storage projects, including quantitative and qualitative analysis of key trends within the various application and technology segments. The tracker provides key facts and figures for each project including capacity, location, primary and secondary applications, technologies utilized, and investment cost where available

調査レポートの詳細は、<http://www.dri.co.jp/auto/report/pike/pikeest4q1111.htm> をご参照ください。

2018年までのスマートグリッドサイバーセキュリティへの投資の



63%はユーティリティーコントロールシステム分野

米国調査会社パイクリサーチ社の調査レポート

「スマートグリッドサイバーセキュリティ調査: システムの信頼性、多層防御、事業継続性、変更管理、通信保護、エンドポイント保護、ID管理、セキュリティイベント管理 / Smart Grid Cyber Security: System Reliability, Defense-in-Depth, Business Continuity, Change Management, Secure Telecommunications, Endpoint Protection, Identity Management, and Security Event Management」のプレスリリース

(日本語訳)

2011年10月18日

ちょうど1年前に Stuxnet ウィルスが発見され、未だそのすべてが解明されたわけではないものの、この1年間の分析のための努力は、スマートグリッドサイバーセキュリティ市場に非常に大きな影響を与えてきた。電話や電力などの公共設備のグリッドは、従来から予測されてきた通り、もはやそれぞれが完全に独立して存続することはあり得ないし、攻撃者から十分に保護されてはいないことも認識されている。米国の環境エネルギーなどの地球環境保護に関するクリーン技術関連市場の専門調査会社パイクリサーチ社の調査レポート「スマートグリッドサイバーセキュリティ調査: システムの信頼性、多層防御、事業継続性、変更管理、通信保護、エンドポイント保護、ID管理、セキュリティイベント管理 — Smart Grid Cyber Security: System Reliability, Defense-in-Depth, Business Continuity, Change Management, Secure Telecommunications, Endpoint Protection, Identity Management, and Security Event Management」は、自社のインフラを守ろうとするユーティリティの主導によって、サーバーセキュリティシステムへの投資がふくらみ、2011-2018年の予測期間に総額140億ドルに達するだろうと報告している。



「スマートグリッドには、攻撃をかわすためのインテリジェンス(防御知性)が必要であり、もしそうでなければ、そのグリッドは『スマート』とは言えない。ただし、そのグリッドにインテリジェンスを追加すると、ハッカー攻撃の領域を更に増加させることもわかっている。電力網が直面する脅威への対応は続いているものの、送配電の更新、変電所の自動化などの安全管理システムへの需要はまだまだ高い。しかし、にもかか

ならず、多くのサイバーセキュリティベンダは、スマートメーターセキュリティなどの IT セキュリティ機能に注力しており、現在提供されている製品と市場のニーズの間には深刻なギャップがある」とシニアアナリストの Bob Lockhart 氏は語る。

この 1 年間に、サイバーセキュリティ市場の真の促進要因が出現し更にその重要性を増してきた。1 年前には初期段階にあった欧州のスマートメーターの導入だが、その設置完了が 2020 年以降にはなるものの、現在では「配置展開」の段階に移ってきている。北米電力信頼性評議会 (The North American Electric Reliability Corporation、NERC) は、重要インフラ保護基準 (Critical Infrastructure Protection、CIP) の不遵守に対して罰金を科し始めている。ユーティリティ (電力会社、電話会社) は、スマートメータインフラ (AMI) よりも、配電自動化技術 (Distribution Automation) からの方が、より多くのメリットを享受できると考えており、各社は配電自動化への投資により積極的であるだろうとパイクリサーチ社は予測している。

「スマートグリッドセキュリティ市場は大きく改善してきているが、サイバーセキュリティは残念ながらハッカーの後塵を拝しているようだ。有力なセキュリティ対策が存在していても、それらが一貫して展開されることは少ない。多くの場合、セキュリティは断片的であり、組織的ではない一方、より洗練されたハッカーは、システム (グリッド) 全体を俯瞰して攻撃を仕掛けるため、攻撃者は非常に有利である」と Lockhart 氏は語る。

この調査レポートは、最も重要なサイバーセキュリティへの投資とビジネスチャンス进行分析し、スマートグリッド技術が直面する脅威と脆弱性を評価している。2018 年までのスマートグリッドのサイバーセキュリティ市場に関し、アプリケーション毎と地域毎のセグメント、主要な企業の概要、世界の市場予測、主要な市場促進要因と阻害要因の詳細な分析を提供している。

(原文) 63% of Smart Grid Cyber Security Investment through 2018 to be Focused on Utility Control System Segments

October 18, 2011

One year ago, the Stuxnet virus had just been discovered. A year's worth of analysis still has not unlocked its secrets but it has had a profound influence upon the smart grid cyber security market. Utilities have – as many predicted – realized that their grids are no longer isolated or protected from attackers. According to a new report from Pike Research, utilities' initiatives to secure their infrastructure will drive increasing investment in cyber security systems, which the cleantech market intelligence firm forecasts will total \$14.0 billion during the period from 2011 through 2018.

“Smart grids need intelligence or they are not smart,” says senior analyst Bob Lockhart. “Adding that intelligence to grids will increase their attack surface and utilities know this. But the industry is still playing catch-up to the threats facing power grids: the greatest needs lie in securing control system segments including transmission upgrades, substation automation, and distribution automation. However, despite this, many cyber security vendors are still focusing on IT security functions such as smart meter security, revealing a critical gap between current security offerings and the needs of the market.”

Lockhart adds that several key market drivers have appeared or gained importance during the past year. European smart metering deployments that were in their early stages a year ago are into the deployment phase, even if completion dates may stretch beyond 2020. The North American Electric Reliability Corporation (NERC) has begun issuing fines for non-compliance with its Critical Infrastructure Protection (CIP) reliability standards. Utilities believe they will see greater benefits from distribution automation than from advanced metering infrastructure (AMI) and Pike Research's forecasts indicate greater spending in that area.

“Much has changed for the positive in the smart grid security market,” says Lockhart. “Unfortunately, one thing has not changed. Cyber security is still way behind the attackers. Even where strong countermeasures exist, they are not consistently deployed, and most sophisticated attackers look at smart grids from a systemic perspective while often the defenses have been installed in piecemeal fashion, without an architecture. This hands an enormous advantage to the attackers, one that the utility industry will grapple with neutralizing for years to come.”

Pike Research's report, “Smart Grid Cyber Security”, assesses the threats and vulnerabilities that confront smart grid technologies, to arrive an analysis of the most significant cyber security investments and market opportunities. The report includes a detailed examination of key market drivers and barriers, along with profiles of key industry players and global forecasts, segmented by region and application area, for smart grid cyber security revenue through 2018.

調査レポートの詳細は、<http://www.dri.co.jp/auto/report/pike/pikesgcs11.htm> をご参照ください。

株式会社 データリソース

東京都港区赤坂 1-14-5-N313 (〒107-0052)

電話 03-3582-2531

ファックス 03-3582-2861

www.dri.co.jp

電子メール info@dri.co.jp

新モバイル半導体市場の市場シェアの 40%の成長をリンレイグループ社が報告



米国調査会社リンレイグループ社の調査レポート
「モバイル向け半導体の市場シェア予測 2010-2015 年
Mobile Semiconductor Market Share Forecast 2010-2015」のプレスリリース

(日本語訳)
カリフォルニア州マウンテンビュー、2011年11月7日

米国調査会社リンレイグループ社の調査レポート「モバイル向け半導体の市場シェア予測 2010-2015 年 – Mobile Semiconductor Market Share Forecast 2010-2015」は、モバイルチップベンダの市場占有率の大きな変化を予測している。この調査レポートは、セルラーベースバンドプロセッサ、アプリケーションプロセッサ、ブルートゥーストランシーバ、モバイル Wi-Fi チップ、GPS レシーバの 5 つの半導体カテゴリーの、モバイルチップベンダの市場シェアと収益を予測している。同社は、モバイルチップベンダとモバイルデバイスの市場傾向の分析に基づいて、2010 年の 214 億ドルから 299 億ドルへと 40%近く成長するだろうと予測している。

「モバイル市場は過去数年で劇的に変化しており、モバイルデバイスメーカーとチップベンダの市場シェアは大きく変化している。チップサプライヤーへの詳細なインタビューと OEM データの幅広い分析に基づいて、この変化の激しい市場で生き残る企業と消え去る企業の予測に関する専門家の見解を提供している」と Linley Gwennap 氏は語る。

主要なモバイルチップベンダの内、クアルコムは、アップル、RIM、ノキアのシェアが拡大して 2012 年に 97 億ドルと大幅なモバイルチップ収益の上昇が見込まれる。これにより、クアルコムは初めてセルラーブロードバンドの出荷数シェアのトップになるだろう。また、ブロードコムはモバイルチップ収益のシェアは、Wi-Fi コンボチップや 3G ベースバンドといった強みに牽引されて、2015 年に 14.7%となるだろうと予測している。ブルートゥースや GPS などのインターフェース技術と Wi-Fi の組合せによるコンボチップは、主にスマートフォンなどに採用され、Wi-Fi チップの平均価格を上昇させている。この調査レポートは、モバイルチップセグメントで最も急速に成長している Wi-Fi に注目し、2015 年までに 111%成長するだろうと予測している。

(原文) The Linley Group Sees Shifting Market Share in Mobile Semiconductor Market

Releases New Mobile Semiconductor Market Forecast, Predicts 40 Percent Growth

MOUNTAIN VIEW, Calif. – November 7, 2011 – Predicting wide shifts in market share for mobile chip vendors, The Linley Group today released the “Mobile Semiconductor Market Share Forecast 2010-2015.” The report forecasts mobile chip vendor market share and revenue in five semiconductor categories – cellular baseband processors, application processors, Bluetooth transceivers, mobile Wi-Fi chips and GPS receivers. Based on in-depth analysis of both mobile chip vendors and mobile device market trends, The Linley Group predicts growth of nearly 40 percent through 2015, with revenue rising from \$21.4 billion in 2010 to \$29.9 billion.

“The mobile market has changed dramatically in the last few years, subjecting both mobile device manufacturers and chip vendors to significant shifts in market share,” said Linley Gwennap. “Through in-depth interviews with chip suppliers and extensive analysis of OEM data, we have developed a forecast that gives readers an expert opinion on the anticipated winners and losers in this dynamic market.”

Among the leading mobile chip vendors, Qualcomm can expect to see its mobile chip revenue rise to \$9.7 billion in 2012 due to large gains in share at Apple, Research in Motion and Nokia. This will make Qualcomm the unit share leader in cellular baseband for the first time ever. The report also predicts that Broadcom’s share of the mobile chip revenue will grow to 14.7 percent by 2015, largely due to its strength in Wi-Fi “combo” chips and 3G baseband. Combining Wi-Fi with other interface technologies such as Bluetooth and GPS, combo chips are growing in popularity in smartphones and contributing to a rise in average selling prices for Wi-Fi chips. The report highlights Wi-Fi as the fastest growing mobile chip segment, predicting 111 percent growth through 2015.

調査レポートの詳細は、<http://www.dri.co.jp/auto/report/lg/lgmobsemishare11.htm> をご参照ください。

株式会社 データリソース

東京都港区赤坂 1-14-5-N313 (〒107-0052)

電話 03-3582-2531

ファックス 03-3582-2861

www.dri.co.jp

電子メール info@dri.co.jp